研究課題　高野山西南院文書の調査・研究―高野山伝来史料の研究資源化にむけて―

研究経費　一万八〇四〇円（前年度よりの繰越分）

研究組織

　研究代表者　　　坂口太郎（高野山大学）

　所内共同研究者　渡邉正男

　所外共同研究者　藤本孝一（龍谷大学）・土居夏樹（高野山大学）・野田悟（高野山大学）・木下浩良（高野山大学）・辻浩和（川村学園女子大学）・澤田裕子（京都光華女子大学）

研究の概要

（１）課題の概要

　本研究は、高野山西南院に伝来した古文書・聖教・石造物について、調査・研究を行なうものである。西南院は高野山の子院の中でも、屈指の文化財を伝えることで知られる。その中核となるのは、重要文化財『西南院文書』全一一巻（高野山霊宝館寄託）であるが、それ以外にも貴重な古文書・聖教が数多く保管されている（「西南院現蔵史料」）。  
　本共同研究では、二〇一八～一九年度に、重要文化財『西南院文書』の原本調査・撮影を行ない、同文書の翻刻や「西南院現蔵史料」の調査にも着手した。引き続き、重要文化財『西南院文書』の翻刻を継続するとともに、「西南院現蔵史料」についても、より正確な全体像を把握すべく、調査・撮影を進める。さらに、高野山最古の紀年銘を持つ鎌倉時代の五輪塔など、西南院境内にある石造物の調査を行ない、文献史料と併せて検討することで、中世高野山をめぐる信仰について検討を進めていく。

（２）研究の成果

　新型コロナウィルス感染症の拡大が止まないため、当初の研究計画を縮小せざるを得なかったが、研究代表者の坂口と共同研究員の藤本が協力しながら、調査・研究を進め、従来から取り組んでいた重要文化財『西南院文書』の翻刻を続行し、第四巻の翻刻を『東京大学史料編纂所研究紀要』第三二号に発表した。同史料は、一九六九年に西南院で火事が発生した際に、大きな焼損を蒙った文書を含んでおり、翻刻にあたっては、損傷以前に撮影された史料編纂所架蔵のマイクロフィルムから、大きな便益を受けた。